



認定NPO法人育て上げネット

厚生労働省雇用対策基本問題部会 ヒアリング資料

時間：10分

本日の論点

1. 主な対象は若年無業者非求職型
2. 若者が支援機関に求めるもの
3. 支援現場での提供サービス

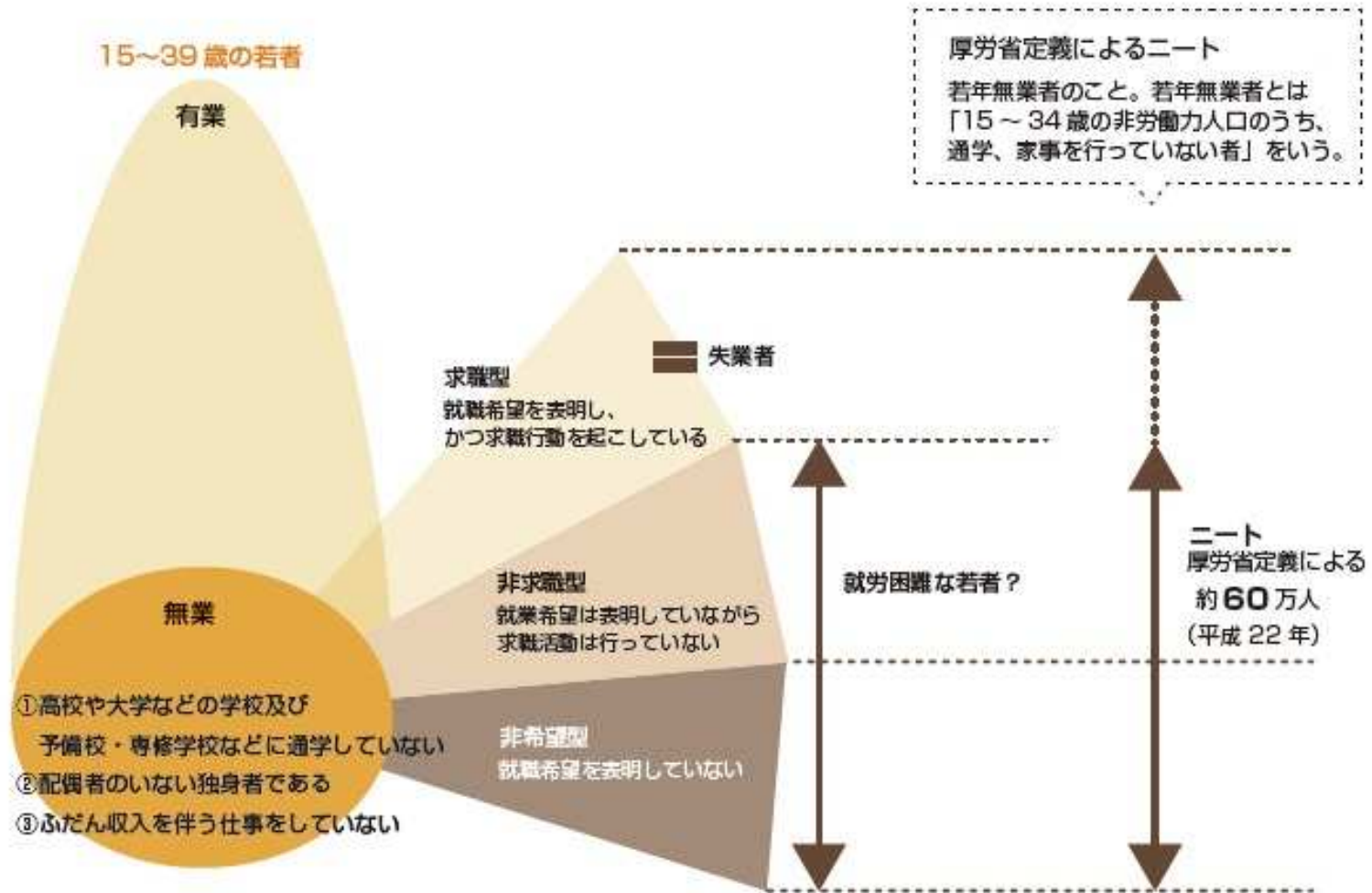
労働力調査などによる内訳
15～39歳(全3600万人)

内閣府の定める「若年無業者」

潜在層

労働力人口	就業者	1,668万人	若年無業者	フリーター(15-34歳) 180万人	生活保護受給 26万人
	非正規雇用	673万人			
非労働力人口	失業者	144万人	ニート 80万人 ひきこもり 70万人 自室or家から出られない 8万人	触法 3万人	家事手伝い 25万人
	求職中(求職型)				
	(非求職型)	38万人			
	(非希望型)	43万人			
	家事手伝い	25万人			
	家事(専業主婦など)	325万人			
	通学	663万人			
			中退・不登校 30万人	進路未定 22万人	

図 1-2◎無業の若者をめぐる定義



出典：若年無業者白書

無業になると「どうしたらいいのかわからない」

- 6か月以内でも74.4%
- 3年を超えると90%を超える

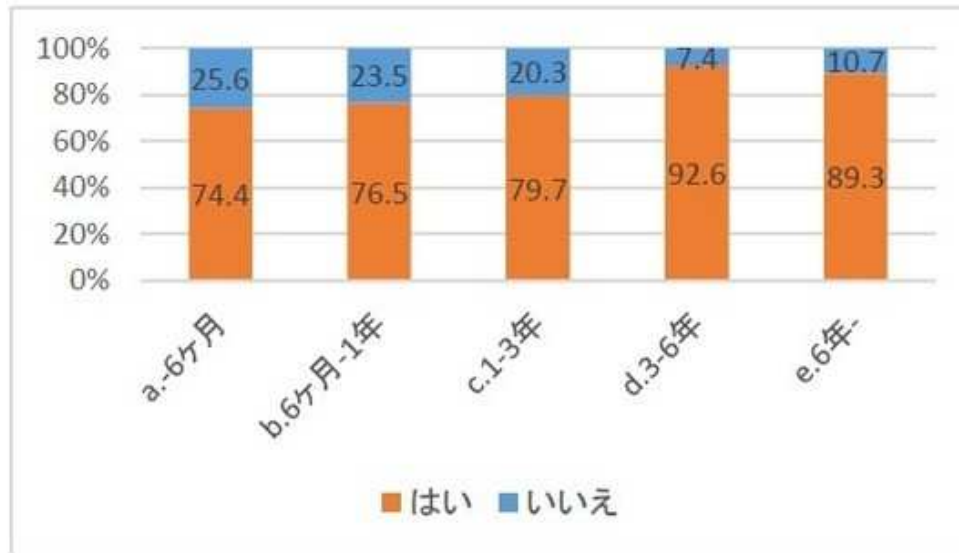
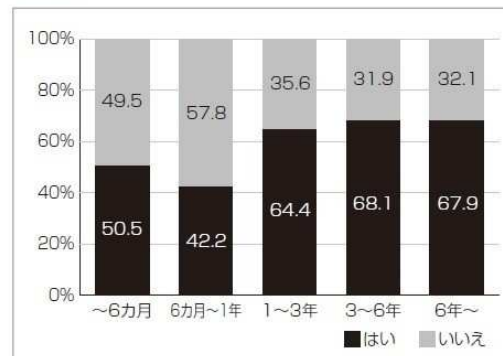


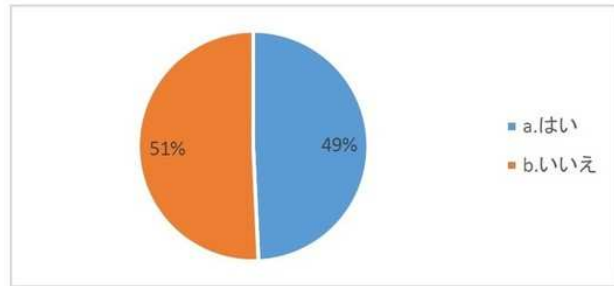
図 1-7-9 人が怖い



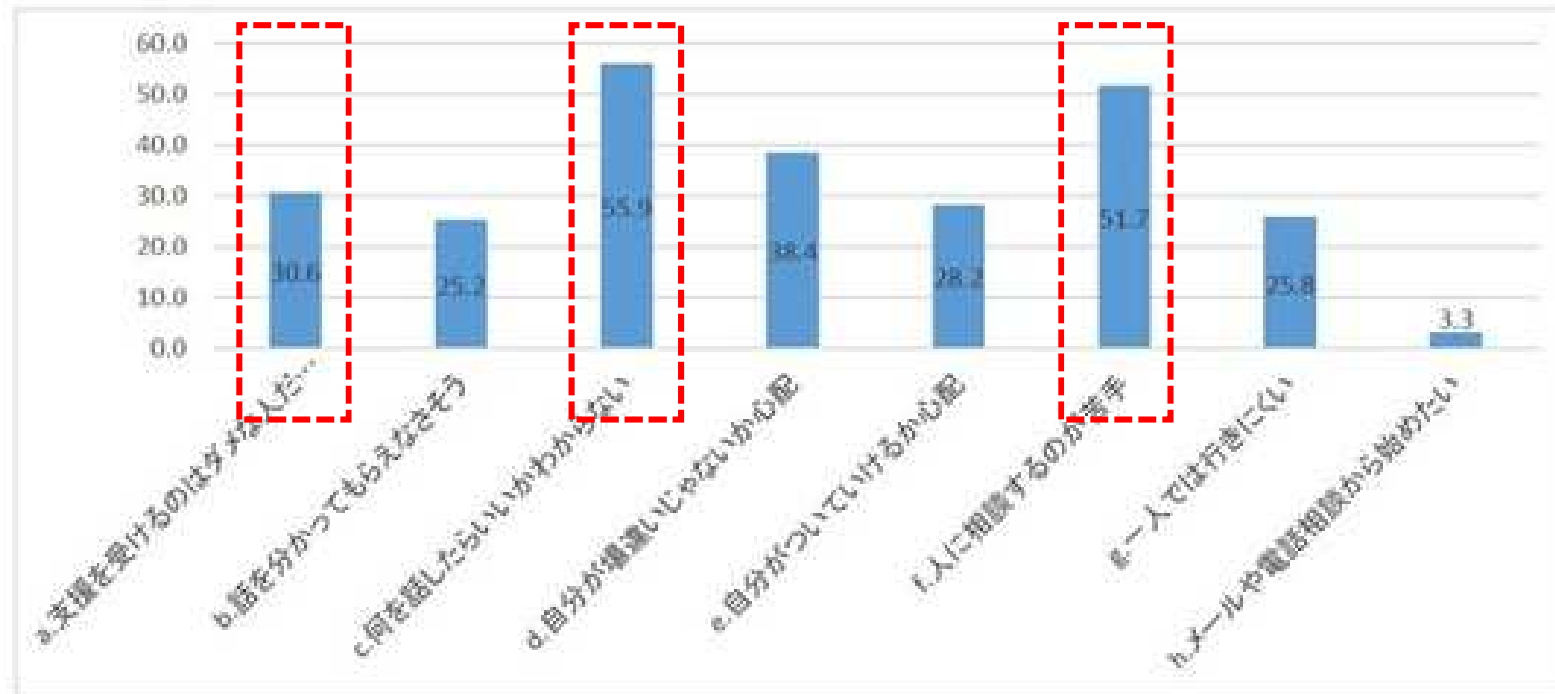
無業期間が1年を超える場合
若年無業者の4人に3人が
「他者が怖い」

出典：若年無業者白書

若年無業者の半数は支援機関の利用に躊躇



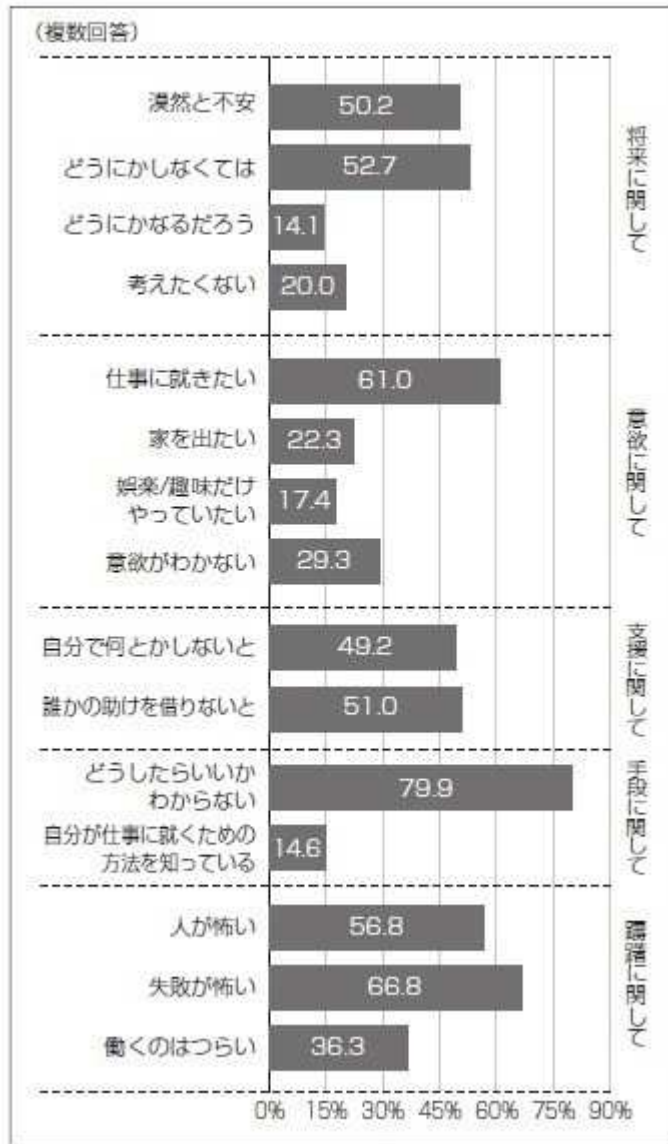
- 何を話したらいいかわからない
- 相談が苦手
- 場違い／ダメな人間



出典：若年無業者白書

図 1-5-3

学校・仕事から離れている間
どんなことを考えていたか



出典: ひきこもり、矯正施設退所者等みずから支援に繋がりにくい当事者の効果的な発見・誘導に関する調査研究

第4節 無業状態の若者の支援機関への来所目的

図 4-01-1 求職型の来所目的

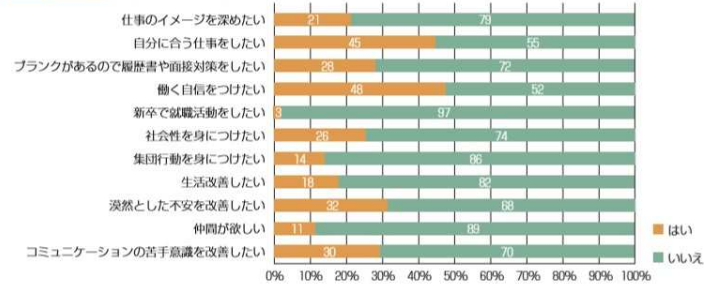


図 4-01-2 非求職型の来所目的

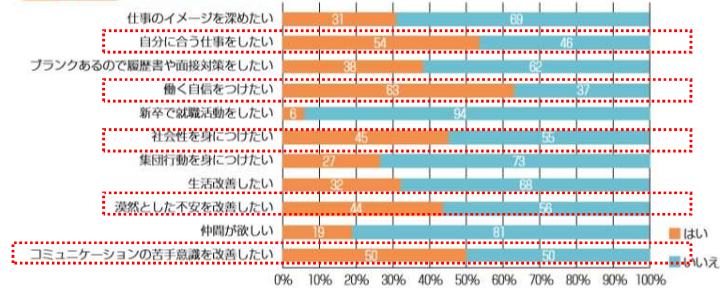
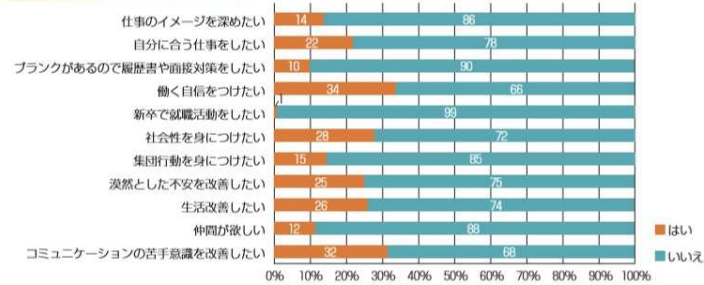


図 4-01-3 非希望型の来所目的



出典: 若年無業者白書

若年就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」

- KPIは「働き続ける（継続）」≠「働く（就職）」
- 「多様」な職業研修：多様な実体験による経験蓄積と選択肢の“絞り込み”



- 職業／職場に留まらない経験蓄積



若年就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」

- インターンシップからの就労
履歴書→面接→職場 ≠ 職場→面接→履歴書
〈採用プロセスの逆転〉

第三者（支援者）の介在
〈労使間から三者間〉



- 保護者や家族を含む、継続的関わり
- 第二顧客と応援団の巻き込み
- エビデンスベースドの支援 ■ 基盤システム導入による支援時間の確保

その他

■ 予防的取り組み

- 進路多様校を中心に年間100校を超える高校との協働
- 困窮家庭を中心とした小学生・中学生への学習と生活支援
- アウトリーチと支援効果向上のための保護者支援

■ キーワード

- 包摂性
- 連続性
- 再チャレンジ

■ 政策的可能性

- トライアル雇用の組み換え（インターンから職場＋第三者フォロー）
 - 支援サービス受益者の主体的選択（バウチャー制度）
 - 支援機関での（一部）職業訓練実施
 - シルバー人材センターの地域開放
- 資本の獲得機会の拡充：経済資本／文化資本／社会関係資本